

テキスト 士師記7章

ヨシュアの死からサムエル登場までの約300年間、士師と呼ばれる12人の指導者が活躍し、悪を行っては危機に陥ったイスラエルを救った。

ギデオンはサムソンと共に重要な士師として覚えられている（ヘブライ11：32）。7章は、ギデオンが民を率いてミディアンを撃退する場面である。ギデオンは召命のときに「わたしの一族はマナセの中でも最も貧弱なものです。それにわたしは家族の中でいちばん年下の者です」（6：15）と自らの人間的な非力を認めていたが、このことがすでにギデオンの活躍がただ神の力によることを予言的に物語っている。

(1) 心がおそろないために（7：1－8）

ギデオンがミディアンの陣営と向かい合ったとき、ミディアンの軍勢が13万5千人（8：10）であったのに対し、イスラエルの軍勢はわずか3万2千人であった（7：3）。しかし主はギデオンに、二回にわたり民の数をさらに減らすよう命じられた。それは、イスラエルが「自分の手で救いを勝ち取った」（7：2）と言っておごることがないようにするためであった。

まず、「恐れおののいている者」（7：3）2万3千人が帰った。戦う前から恐れを抱いている者は他の者にも影響を与えかねないということもあっただろう（申命記20：8）。次に、水の飲み方によって民を選別した。「犬のように舌で水をなめる者、すなわち膝をついてかがんで水を飲む者」（7：5）は帰され、「水を手にすくってすすった者」300人が残された（7：6）。これは注意深さを見るテストであったかもしれない。主はただ民の数を減らされたのではなく、戦いにふさわしい確固たる信仰とすきのない注意深さを備えた精鋭を残されたと言える。13万5千人対300人、人間の目には圧倒的な力の差と映る戦いも、主の約束は「あたかも一人の人を倒すように打ち倒すことができ

る」（6：16）というものであった。

(2) 恐れを取り除く（7：9－15）

戦いを前に、主はギデオンと従者プラを敵陣への偵察に遣わす（7：10）。すると、敵の一人が仲間に夢の話をしているのを聞く。それは、ミディアンがイスラエルに倒されるという内容の夢であった（7：13）。この話を聞き、ギデオンは主を礼拝し、勝利を確信する（7：15）。通常、偵察は敵陣の配置などを探るものであるが、この偵察においては大軍である敵の中にも恐れがあることを見出した。このことによって、ギデオンの心になお残っていたかもしれない恐れ（7：10）は取り除かれたのである。

(3) 戦いの勝利（7：16－25）

ギデオンは300人の民を三つの小隊に分け、深夜に敵陣に入っていく（7：19）。数に劣る民が大軍を攻め落とすために最もふさわしい時を、主は備えられたのである。民は角笛を吹き、水がめを割り、大声で叫んだ（7：20）。眠っていたであろう敵はこの音に驚き、また一斉にかざされた松明（7：20）に目がくらんだかもしれない。敵は同士討ちさえもはじめ（7：22）、敗走していった。ギデオンは、残された300人以外の民をも招集し（7：24）、彼らはミディアンの二人の将軍を捕らえて殺した。ギデオンの攻撃は成功した。しかしすべては主の御業であった。

ギデオンの戦いと勝利には、小さな者やわずかな民を豊かに用いられる神の力が鮮やかに物語られている。そして、このことは、新約における主イエスの教えへとつながっていく。「小さな群れよ、恐れるな。あなたがたの父は喜んで神の国をくださる」（ルカ12：32）。（石原知弘）

テキスト 士師記7章
参照カテキズム 子どもカテキズム問11, 13, 14

〔単元のねらい〕

士師ギデオンと300人の勇士の物語である。説教中にもあるように、これはイスラエルの人々にとっても非常に大切な出来事で、神の救いを想起するために語り継がれた物語である。たった300人で大軍を打ち破らしめた神の御業の奇跡に、私たちも一緒に酔いしれたい。しかしこの奇跡の裏に、それを演出する周到な準備があったことを語り逃して、子ども達をまるでマインドコントロールするかのような説教は、私たちの本意ではないでしょう。この説教では戦略家としてのギデオンの知恵の非凡さにあまり触れてはいないが、もう少し取り上げてもいいかもしれない。子ども達に、思考停止に陥らない、正しく健全な信仰への道を備えてあげていただきたい。

「たった300人ですか!？」

今日は、イスラエルの人々がカナンで暮らし始めてからのお話をします。ヨシュアに率いられたイスラエルの人々は、先立って戦ってくださる主なる神様を信頼し、約束の地カナンに入ることができました。でもすぐに正しい道を踏み外してしまうのが、旧約聖書に出てくる人たちの歩みです。罪人の歩みです。カナンに住み始めてからも、たびたび神様の目に悪いことを行って（士師6：1）、そのたびに神様は彼らに敵を送り込んで悔い改めを求めます。この時もミディアン人が攻め込んできて、イスラエルの人々を7年にわたって苦しめました。畑をめちゃくちゃにして、羊も牛もろばも残さず奪っていってしまいます。ついにイスラエルの人々は耐え切れなくなり、神様に助けを求めて叫びました。

すると神様は叫びを聞いてくださり、ギデオンという人を召し出して、人々を率いるリーダー（士師）としてお立てになりました。神様はギデオンに言われました。「あなたはミディアン人に勝利し、イスラエルの人々を救い出すことができる。私があなたを遣わすからだ。」ギデオンはそうやって神様に背中を押されて、いよいよミディアンの大軍と戦うことになったのです。

すると神様から信じられない命令がなされました。「ちょっと待ちなさい。このままではイスラ

エルの数が多い。このまま勝利したら、またわたしのことを忘れて、自分たちの力で戦いに勝ったと傲慢になるだろう。だから数を減らそう。戦いに行くのを怖がっている人を家に帰らせなさい。」こうして2万2千人が減って、1万人だけ残りました。しかもそれだけではありません。神様は「まだ多すぎる。」と言われます。そして神様は、1万人の人を水辺に導き、ひざをついてかがんで水を飲んだ者は選ばず、手ですくって飲んだ者だけを選ばれました。すると残ったのは、何とたったの300人!？ 敵は数え切れないほど多くの戦士をそろえた大軍です。いったいどうなることか。ギデオンも、300人の戦士たちも不安でいっぱいだったかもしれません。しかし信じられないことが起こるのです。

ギデオンと共に立ち上がった300人は、夜になるとミディアン人にそっと近づき、壺の中に隠したたいまつと角笛とをそれぞれ持って、大軍の周りを取り囲みました。敵はすっかり寝静まっています。すると、ギデオンたちが一斉に壺を叩きつけて壊したので、大きな音が響き渡って、ミディアン人は驚いて飛び起きました。そして慌てて周りを見渡すと、たくさんのたいまつに囲まれている!! ように見えたのです。しかも300人が大きな声で「神様のために、ギデオンのために」と叫

んで、角笛を吹き鳴らしています。だから、イスラエルの大軍が襲ってきた!!と、勘違いしてパニックになってしまいました。さあ、もうこうなったらどうにもならない。暗闇の中で、誰が敵か味方かも分からぬままに、仲間同士で戦い始めて大混乱。慌てて逃げようとする者たちも、後ろから迫ってくるギデオンたちによって次々と倒されていきます。イスラエルの大勝利です。ミディアン人たちは、すっかり打ちのめされてしまって、それからはもう二度とイスラエルの人々の物を奪いに来ることもなくなったのです。

こういうすごい奇跡が起こったこの勝利の日、この後のイスラエルの人々はこの日を「ミディアンの日」と呼んで（イザヤ9:3、詩編83:10）、神様の偉大なお力が示された大切な思い出として長く記憶することになりました。

私たちがこの時の300人だったら、あるいはこの戦いを見ていたイスラエルの人々だったら、一体どういう気持ちでこの日を迎えたのだろうか？いつもそういうことを考えてしまいます。神様が助けてくれなければ、絶対勝てるわけがない、きっと人々はそう思ったことでしょう。でも神様はそのような人々の思いを求めておられたのです。もう自分たちの力ではどうしようもない、神様に助けていただくしかない、人々が心の底からそのように思って、神様に信頼することを始める時、そこに神様の救いは始まります。神様はいつもその時を待っておられる。そしてこの「ミディアンの日」にも、確かに人々の祈りに答え、信頼に答え、

偉大なお力を示してくださった。天地を創られたお力を、不可能を可能にするお力を、そしてイエス様を死から復活させることのできるお力を、はっきりと私たちに示してくださったのです。

このような神様のお力への信頼、それは「どんなことでも神様が助けてくださる」と、向こう見ずで無謀な行動をすることではありません。そういうのを私は、猪突「盲信」と言っています。そのような勇氣は神様が求めるものではありません。今日のお話のギデオンはとても臆病で、慎重で、「神様が本当にイスラエルを救おうとされているのか」、何度も何度もしるしを求めて確認しました（6章参照）。そしてミディアン人を攻撃する時も、必死に頭を使って、残った300人で勝つことができるように作戦を練りに練ったのです。それは自分の力を頼ったということではありません。神様に深く信頼して、必ず勝利が与えられると信じながら、自分にできることを精一杯行って、作戦を練ったのです。そして神様はそれを用いられました。だから彼は300人を勝利へと導くことができました。

大切なことは、どんな時も、神様が私たちと共に歩んでくださることを覚えて、落ち着いて現実の困難に取り組むことです。神様はあなたに必要なものをすべてご存知のお方です。人間にはできなくとも神にはできるのです。その信仰をもって力を尽くすなら、私の貧しい力が、あなたのまだ小さなその手が、そのアイデアが、きっと神様の大きなご計画のために用いられることになるのです。（坂井孝宏）

[今週の暗唱聖句] 出エジプト記14章13節前半

恐れてはならない。落ち着いて、今日、あなたたちのために行われる主の救いを見なさい。

〈ねらい〉

数でなく、人間の力でなく、主が勝利を与えて下さることを知ろう。

〈展開例〉

①お祈り

②「欠席は誰かしら？ 一週間楽しかった？」

③「今日の礼拝のお話、とてもわくわくしたけれど、お話ししたい人はいるかな？まず、誰が出てきましたか？」

——（答え）神様、ギデオン、ミディアン人、イスラエル人

④「水辺で水を飲んでみましょう。」（身体表現）
い）犬のように顔を水につけて舌でペロペロと飲んだ人

ろ）膝を立てて手で水をすくって飲んだ人「神様は、膝を立てて飲んだ300人を残し なさいと言われましたね。」

⑤「どうしてこんなに少ない人数で戦わせよう

となさったのでしょうか。」

兵隊の数が多いと、自分たちの力でミディアン人に勝ったと思うかも知れません（心が おごらないため7：1—8）。神様は、神様が一緒 にいて勝たせて下さったことがよくわかるよ うに、300人で戦いに行かせたのです。」

⑥「ミディアン人を攻めた場面を思い出しましょう。ここにおおぎ型の画用紙があります。絵を描いて角笛を作りましょう。そして、一緒に鳴らして、関の声をあげましょう。『主のために、ギデオンのために』ブーン！

（ミディアン人の夢の、大麦のパンのお話をしてもおもしろいでしょう。）

〈祈り〉

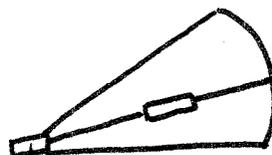
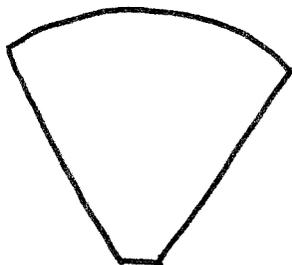
どんな時にも神様の御心を祈り求め、力を与えられ、喜んで楽しく過ごせますように。

〈やってみよう〉

角笛を作って関の声を上げよう

準備する物

おおぎ型に切った画用紙、ストロー（5cmくらいに切る）、クレヨン、セロテープ。



ストロー

丸めて、セロテープで貼ります。

☆ストローに口をつけて、「ブーン」と言います。

〈ねらい〉

ギデオンの勝利は神様による勝利であることを学び、わたしたちはたとえ少数であっても、力が弱い者であっても、主に信頼し、恐れなくて悪の力と戦う子供たちにしたい。

〈展開例〉

ギデオンは、イスラエルのために、その当時バアルの偶像を拝みイスラエルの人々から食料や財産を奪って荒らしまわっていたミディアン人や獰猛なアマレク人と戦うために、主によって選ばれた人であったが、彼自身はもともと臆病な人であった。しかし、主は明らかな召命によって、アマレクびとに立ち向かう勇士として彼を立ち上がらされました（士師記6章11節～40節）。

いよいよアマレクの軍隊にむかって戦いを始める前、主はギデオンに少数精鋭によって戦うことを求められました。それはアマレクへの勝利が人の力ではなく、神様ご自身が御力をもって戦いたもうたことを知らせるためでした。まず臆病な者二万二千人が取り除かれ、一万人が残されました。主はこれでもまだ多いとして水辺に導き、そこで水の飲み方でテストされました。犬のように舌で水をなめた者、それに、ひざをついて飲んだ者もテストに不合格とされました。水を手にすくってすすった者だけが残され、わずか300人しかいませんでしたが、主はこの300人だけを戦いの勇士としてお選びになったのでした。

ギデオンはこの300人を三つのグループに分け、ある夜の真夜中頃、たいまつを壺の中にかくして

持ち、そしてもう一方に角笛を持たせました。ギデオンは彼らにこう命じました。「わたしを見て、わたしがするようにせよ。わたしとわたしが率いる者が角笛を吹いたら、あなたたちも角笛を吹き『主のために、ギデオンのために』と叫ぶのだ。」敵陣の前に着き、ギデオンと彼の率いる百人が角笛を吹き持っていた壺を砕きました。すると、ほかの二組の小隊の兵士たちも同じように、そろって角笛を吹き、壺を割ってたいまつを左手にかざし、右手で角笛を吹きつけ、「主のために、ギデオンのために剣を」と叫びました。三組の部隊はミディアンの陣地をうまく囲むようにして、それぞれの場所に陣取って行動したので、敵の兵隊は大慌てに騒いで、真っ暗闇のなかで同士討ちになり、もう戦うことができないと思い逃げていきました。

こうして、ギデオンたちは、イスラエルの人々をミディアン人やアマレク人から守ったのです。これは、神様が共におられて助けてくださったのです。神様は、人々が苦しむ時、こうして助ける人をおたてくださり、ご自分が御力をもって助けてくださるのです。わたしたちはこの神様に信頼してお従いいたしましょう。

〈いのり〉

困っている時にわたしたちを助けてくださる憐れみ深い神様。どうかわたしたちが困ってどうしたらよいかわからないとき、わたしたちを助けてください。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。



〈ねらい〉

ヨシュアの死後、民を指導した士師12人の内の一人ギデオンの信仰を知り、子供達を取り巻く知識中心、力の支配の環境の中で何が一番大切かを学ぶ。

〈展開例〉

今日は士師記の中のヨシュアの後を継いだ指導者(12人の内の)ギデオンの勉強です。神様の導きでエリコを攻略しカナンに住めるようになったイスラエルでしたが、すぐそのことを忘れ、偶像礼拝に染まりました。人間は直ぐに悪いことを始めますね。

そこへ隣国が侵入して来ました。ミデアン人です。この時神様に召されたのがギデオンです。今日の説教からそのことを復習しましょう。

先週に続いて3択問題です。

1. ミデアン人の侵入に備えて神様はギデオンを召されました。どんな人でしたか。
a：力の強い勇者 b：知恵のある学者
c：どちらかと言うと気の小さい普通の人
2. ギデオンは主の使いに会いました。主の使いの言葉にどう答えたのでしょうか。
a：OK、まかしておいて下さい。
b：私は最も小さい貧弱な者です。
c：私に力を下さい。
3. 主の使いはギデオンに「恐れるな私が共にいる。」と言い、ギデオンはその証拠を見ました。それからギデオンが最初にしたことは何でしょうか。
a：バアルとアシュラ像ををとりこわし、偶像礼拝をやめる。
b：戦争の準備をする。

c：ミデアン人と戦わない交渉をした。

4. イスラエルの人々はそれでどうしましたか

a：ギデオンを殺そうとした

b：ギデオンを見直した。

c：無視した。

5. ギデオンを中心にイスラエルの兵士が集まりました。いよいよ戦いです。集まったイスラエルの軍の数は3万2千人。一方ミデアン人は13万5千人。イスラエルにとって不利な戦況です。神様はギデオンにどうせよと言われましたか。

a：3万2千人では足りない、兵を増やしなさい。

b：負けそうだから戦争は止めなさい。

c：怖がっている兵を帰らせなさい。

この時、1万人の兵が残り、更に水辺でのテストで300人が残された記事は、ギデオンの精鋭として説教でも語られるので簡単に復習し、なぜ300人で勝てたのか、物理的状況を越える神様の作戦を理解するように導いてください。この時のギデオンの考えや作戦計画について、何も記されていないことに注意。聖書地図を見て、戦場となったヨルダン川の東地方エンハドルやモレの丘(標高500m余)なども調べておきたい。

〈祈り〉

※生徒に祈らせてもよい。

天の神様。今日学んだギデオンの活躍の中で、人間の知恵や力が小さなことを分らせてください。どんな時にも神様のお力を信じて進めるように導いて下さい。イエス・キリストの聖名によってお祈りします。

〈ねらい〉

勝利は人の力でなく、主が与えたもうことを知る。

〈展開例〉

1. 聖書をもう一度読む

2. 分かち合い

Q. 説教を聴いて教えられたこと、心に響いたこと、実行しようと心を動かされたことは？

Q. 分からなかったことは？

※教師、生徒という以前に、まず教師自身が神の御前に一人の御言葉の聴衆として、教えられたこと、感動したこと、心を導かれていることを、率直に生徒達に話すことが大切だと思います。自分の心に響いたメッセージが一番生徒の心に届くからです。分級では何かを新たに教えるよう無理に導くのではなく、生徒達と御言葉を巡って語り合ったり、共に祈る時間を重視してくださいと思います。

3. 質問例

※質問例は、それぞれのクラスの実情に合わせてアレンジしていただき、解答例は子供達の答えを補足したり、教えたりするのにお使いくださいと思います。

Q. 神様はギデオンと共にミディアン人と戦う民の数を二度にわたって減らされました。ただでさえミディアン人の数がまさっていたのに、神様は何故このようなことをおっしゃったのでしょうか？

→「渡せば、イスラエルはわたしに向かって心がおごり、自分の手で救いを勝ち取ったと言うであろう。」(2節) ためであった。勝利がただイスラエルの神、主の御力によることを明らかにするために、このようにされたのである。

Q. ギデオンの精兵300人の勝利は何を教えて

いますか？

→勝利をもたらすのは兵の数、人間の力ではなく、主の御力であること。

Q. 大勝利をおさめたギデオンでしたが、彼は本来どのような人物だったのでしょうか？

→「ギデオンは、ミディアン人に奪われるのを免れるため、酒ぶねの中で小麦を打っていた。」(士師6:11) 彼はとてもミディアンの脅威と戦えるはずのない臆病な小心者であった。彼が勝利できたのは、ただ「わたしがあなたを遣わすのではないか。」(14節) との主の派遣と、『わたしがあなたと共にいるから、あなたはミディアン人をあたかも一人の人を倒すように打ち倒すことができる。』(16節) ことによったのである。

Q. イスラエルの民は、神様が敵の手から救い出してくださったこの勝利の日を「ミディアンの日」と呼んで長く記憶しました。この勝利は私達とどのような関係がありますか？

→「ミディアンの日のように」(イザヤ9:3) 神様が劇的に介入されたひとりのみどりごイエス様の誕生とその王としての御支配によって、私達も主が勝利を与えてくださることを期待できる者とされた。

Q. 「あなたのその力をもって行くがよい。」(士師6:14) と主は私達におっしゃってくださいます。主の御手の中で私達の小さな力と知恵が神様のご計画のために豊かに用いられると聖書は教えています。だったら、あと必要なものは何でしょう？

→このお方を信頼して、委ねる信仰。

4. お祈り

神様に委ねる信仰が強められるように。

※一人一人に祈りの課題を出してもらったり、自然に浮かび上がってきた課題を祈っても良いと思います。